

中国陶磁器 12世紀

蜂屋遺跡 hachiya

品 名 中国陶磁器・白磁

器 種 碗、皿

年 代 平安時代後期（12世紀）

サ イ ズ 碗 口径15.8~17cm 高さ5.4~6.2cm

皿 口径10.2~10.6cm 高さ2.4~2.6cm

概 要 中世墓から出土した中国陶磁器は全部で11点（碗6点、皿5点）

碗は口縁部の形態がいずれも玉縁のもので、大きいものと小さいものに分けられます。6点中5点が大きいタイプになります。皿は丸みの体部をもつものと丸みをもたずに直線的に口縁にむかって伸びるタイプがあります。なかには輪花を6か所に施したものがみられます。



▲中世墓出土の中国陶磁器



遺構の概要

中国陶磁器を出土した中世墓の注目すべき点は、通常の墓はひとつの墓坑にひとつの棺を納めますが、今回の事例は大小3つの棺を同時に納めていることです。

墓坑の大きさは、南北3m、東西2.8m、深さ52cmで、その中は板で広い空間と狭い空間に仕切られ、広い空間には大小二つの木棺（大：長辺 2.5m、短辺 0.7m、小：長辺 1.6m、短辺 0.5m）を納め、狭い空間にもうひとつの木棺（長辺 1.75m、短辺 0.45m）を納めています。

中国陶磁器は、広い空間にある二つの棺の北東に土師器の皿と一緒に椀4点、皿2点が置かれ、中心にあたる大きい棺の側板沿いに間隔を置いて皿2点と南側小口の側に皿が1点出土しています。狭い空間にある棺の北東からも土師器の皿と一緒に椀2点が出土しています。

まとまった中国陶磁器の出土は、墓の構造が特殊な部分も含めて今後墓のあり方や被葬者を考えていく上で重要な要素となります。



▲1号、2号
木棺墓北東側の
中国陶磁器



▲1号木棺墓側板付近の土器



▲1号、2号、3号木棺墓（北東から）